

製品安全データシート

作成日：2019年7月1日

1. 化学物質等及び会社情報

1-1) 化学物質等の名称

製品名：燃料用アルコール

1-2) 会社情報

会社名：兼一薬品工業株式会社

住所：〒555-0033 大阪府大阪市西淀川区姫島3丁目5番23号

担当部門：医薬情報室

電話番号：06-6471-3548

FAX番号：06-6471-5659

連絡先：兼一薬品工業株式会社 医薬情報室

2. 危険有害性の要約

2-1) GHS分類区分

物理化学的危険性：	引火性液体	区分2
	自然発火性液体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分4
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（蒸気）	分類できない
	急性毒性（粉塵、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分1（視覚器、中枢神経系、全身毒性）
		区分3（麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分1（視覚器、中枢神経系）
		区分2（肝臓）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境有害性（急性）	分類できない
	水生環境有害性（長期間）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外

2-2) GHSラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：危険

危険有害性情報：引火性の高い液体及び蒸気

飲み込むと有害

強い眼刺激

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

臓器（視覚器、中枢神経系、全身毒性）の障害

眠気またはめまいのおそれ

長期にわたる、または反復暴露による臓器（視覚器、中枢神経系）の障害

長期にわたる、または反復暴露による臓器（肝臓）の障害のおそれ

注意書き：

安全対策 この安全データシートをよく読み、すべての安全に関する注意事項を理解するまで取扱わないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること（禁煙）

容器を密閉しておくこと

容器を接地すること／アースをとること

防爆型の電気製品、換気装置、照明機器を使用すること

火花を発生させない工具を使用すること

静電気放電に対する予防措置を講ずること

粉塵、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと

取り扱い後は手をよく洗うこと

この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと

屋外又は換気のよい区域でのみ使用すること

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること

応急措置

気分が悪い時は医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。

特別な処置が必要である（「4. 応急措置」を参照）。

口をすすぐこと。

飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣服を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当を受けること。

暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

火災の場合：適切な消火方法をとること。

保管

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

容器を密閉しておくこと。

廃棄

内容物、容器は法に沿った処理をすること。

3. 組成及び成分情報

3-1) 単一物質・混合物の区別 : 混合物

3-2) 成分情報

化学名又は一般名	化学式	分子量	CAS.No.	官報公示整理番号 <EINECS No.>	濃度又は濃度範囲 (wt%)
メタノール	CH ₃ OH	32.04	67-56-1	化審法(2)-201 <200-659-6>	95
エタノール	C ₂ H ₅ OH	46.07	64-17-5	化審法(2)-202 <200-578-6>	4
水	H ₂ O	18.02	7732-18-5	—	1

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にすること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 製品の浸潤した衣服を直ちに脱がせること／取り除くこと。
水で流しながら洗浄すること。石鹼を使ってよく落とすこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 眼に入った場合 : 豊富な洗浄水で最低 15 分間注意深く洗浄すること。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、更に数分間洗浄すること。直ちに医師の手当を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄すること。
医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。
直ちに医師の手当を受けること。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤
大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 危険有害性 : 加熱により容器が爆発するおそれがある。
極めて燃え易く、熱、火花、火炎で容易に発火する。
消火後、再び発火するおそれがある。

- 火災時に刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 消火方法 : 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 関係者以外の立入りを禁止する。
- 保護具及び緊急時措置 : 状況に応じて保護具（呼吸器用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用し、当該物の吸入や直接接触を避ける。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。
大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し、回収できなかった場所を大量の水で洗い流す。
- 二次災害の防止策 : 浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

7-1) 取扱い

- 技術的対策 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項 : 「10. 安定性及び反応性」を参照
 ・みだりに火気その他点火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。
 ・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
 ・取扱い及び保管施設の電気設備は全て防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。
 ・取扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、又は酸化性のものを置かない。
- 接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」を参照
 ・炎、火花または高温体との接触を避ける。

7-2) 保管

- 技術的対策 : 該当法規の規制に従う。
- 混触危険物質 : 「10. 安定性及び反応性」を参照

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- 安全な容器包装材料 : 該当法規の規制に従う。

8. 暴露防止及び保護措置

8-1) 管理濃度、許容濃度

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
メタノール	200ppm	200ppm 260mg/m ³	TLV-TWA 200ppm TLV-STEL 250ppm Skin
エタノール	設定されていない	設定されていない	TLV-STEL 1,000ppm

- 8-2) 設備対策 : 装置の気密が重要である。照明設備は防爆型のものを使用する。取扱いについては、火気のない換気のよい場所で行う。
- 8-3) 保護具 : 必要に応じ、ゴム手袋、ゴム前掛、安全靴を着用する。高濃度の場所では、ゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、防毒マスクを着用する。
- 8-4) 作業着 : 帯電防止衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

9-1) 製剤の物理的及び化学的性質

- 性状 : 特徴的な臭気のある、無色若しくは淡黄色澄明な液体
- 引火点 : 11.5 °C (タグ密閉式)

9-2) 成分の物理的及び化学的性質

項目	メタノール	エタノール
物理的状態、形状、色など	無色の揮発性液体	無色透明の揮発性液体
臭い	特異臭	特異臭
pH	該当せず	該当せず
融点・凝固点	-97.8°C	-114.5°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	65°C	78.3°C
引火点	12°C	13°C
発火点	464°C	439°C
燃焼又は爆発範囲	6.0vol%~36.5vol%	3.3vol%~19.0vol%
蒸気圧 (20°C)	12.7 kPa	5.9 kPa
蒸気密度 (空気=1)	1.11	1.59
比重 (密度)	0.79142 (20°C)	0.78493 (25°C)
溶解性	水、エーテルによく溶ける	水、エーテルによく溶ける
n-オクタノール/水分配係数	log Pow=-0.82~-0.66	log Pow=-0.30
分解温度	データなし	データなし
粘度 (粘性率)	0.555mPa・s (25°C)	1.078mPa・s (25°C)

10. 安定性及び反応性

10-1) 製剤の化学的安定性： 通常の取扱い条件においては安定である。

10-2) 成分の有害性情報：

(1) メタノール (100%として)

化学的安定性： 法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。

危害有害反応可能性： この物質の蒸気と空気はよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。
酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件： 高温への暴露

混触危険物質： 酸化剤

危険有害な分解生成物： 爆発性混合物

(2) エタノール (100%として)

化学的安定性： 法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。

危害有害反応可能性： 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件： 高温への暴露

混触危険物質： 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、酸化剤

危険有害な分解生成物： 情報なし

11. 有害性情報

11-1) 製剤の有害性情報： 情報なし

11-2) 成分の有害性情報：

(1) メタノール (100%として)

急性毒性：経口 「区分4」

・ラット LD₅₀ 6,200 mg/kg(EHC 196(1997))

LD₅₀ 9,100 mg/kg(EHC 196(1997))

ラットの LD₅₀ 値から区分外と判断されるが、メタノールの毒性はげっ歯類に比べ霊長類には強く現れるとの記述があり (EHC 196(1997))、ヒトで約半数に死亡が認められる用量が 1,400 mg/kg であるとの記述 (DFGOT vol.16 (2001)) があることから、区分4とした。

経皮 「区分外」

・ウサギ LD₅₀ 15,800 mg/kg(DFGOT vol.16(2001))

吸入 (蒸気) 「区分外」

・ラット LC₅₀ > 22,500ppm(4時間換算値：31,500ppm)

(DFGOT vol.16(2001))

なお、飽和蒸気圧濃度は 116,713ppmV であることから気体の基準値で分類した。

吸入 (ミスト) 「分類できない」

情報なし

皮膚腐食性・刺激性： 「分類できない」

ウサギに 20 時間閉塞適用の試験で刺激性がみられなかったとする未発表データの報告はあるが、皮膚刺激性試験データがない。なお、ウサギに 24 時間閉塞適用後、中等度の刺激性ありとする報告もあるが、メタノールによる脱脂作用の影響と推測されている (DFGOT vol.16(2001))。

眼に対する重篤な損傷 : 「区分 2」

傷・眼刺激性 : ウサギを用いた Draize 試験で、適用後 24 時間、48 時間、72 時間において結膜炎は平均スコア (2.1) が 2 以上であり、4 時間まで結膜浮腫が見られた (スコア 2.00) が 72 時間で著しく改善 (スコア 0.50) した (EHC 196(1997))。しかし、7 日以内に回復しているかどうか不明なため細区分はしていない。

呼吸器感作性 : 「分類できない」

情報なし

皮膚感作性 : 「区分外」

モルモットを用いた皮膚感作性試験 (Magnusson-Kligman maximization test) で感作性は認められなかった (EHC 196(1997))。なお、ヒトのパッチテストで陽性反応の報告が若干あるが、他のアルコールとの交差反応、あるいはアルコール飲用後の紅斑など皮膚反応の可能性もあり、メタノールが感作性を有するとは結論できないとしている (DFGOT vol.16(2001))。

生殖細胞変異原性 : 「区分外」

マウス赤血球を用いた in vivo 小核試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験) において、吸入暴露で陰性 (EHC 196(1997))、腹腔内投与で陰性 (DFGOT vol.16(2001))、PATTY (5th, 2001)。なお、マウスリンフォーマ試験の代謝活性化 (S9+) のみで陽性結果 (EHC 196(1997)、DFGOT vol.16(2001)) はあるが、その他 Ames 試験 (EHC 196(1997)、DFGOT vol.16(2001))、PATTY (5th, 2001)) やマウスリンフォーマ試験 (EHC 196(1997)、DFGOT vol.16(2001)) や CHO 細胞を用いた染色体異常試験 (DFGOT vol.16(2001)) など in vitro 変異原性試験では陰性であった。

発がん性 : 「分類できない」

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) による未発表報告ではラット・マウス・サルの試験で発がん性なしとしている (EHC 196(1997))。また、ラットを用いた 8 週齢より自然死するまで飲水投与した試験で、雌雄に頭部と頸部のがん及び雌に血液リンパ網内系腫瘍の発生が有意かつ用量依存的に増加したと報告されている (ACGIH(2009))。しかし、腫瘍の判定が標準的方法と異なり、動物の自然死後に行われていないため、評価あるいは比較が困難と考えられる。以上の相反する情報により分類できない。

生殖毒性 : 「区分 1 B」

妊娠マウスの器官形成期に吸入暴露した試験において、胎児吸収、脳脱出などが見られ (PATTY (5th, 2001))、さらに別の吸入または経口暴露による試験でも口蓋裂を含め、同様の結果が得られている (EHC 196(1997)、DFGOT vol.16(2001))。メタノールの生殖への影響に関して、証拠の重みに基づく健康障害としての科学的判断がなされ、ヒトのデータは欠如しているが動物による影響は明確な証拠があることから、暴露量が十分であればメタノールがヒトの

発生に悪影響を及ぼす可能性がある」と結論されている（NTP-CERHR Monograph(2003)）。以上によりヒトに対して生殖毒性があると考えられる物質とみなされる。

特定標的臓器・全身毒性： 「区分1（中枢神経系、視覚器、全身毒性）、区分3（麻酔作用）」
 （単回暴露） ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中でのギ酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、吐気、嘔吐、クスマウル呼吸、クスマウル昏睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている（EHC 196(1997)、DFGOT vol.16(2001)）。また、中枢神経系の障害、特に振せん麻痺様錐体外路系症状の記載もあり、さらに形態学的変化として脳白質の壊死も報告されている（DFGOT vol.16(2001)）。標的臓器として更に、眼に対する障害が特徴的であるので視覚器を、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状として頭痛、吐気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もあるので全身毒性をそれぞれ採用した。一方、マウス及びラットの吸入暴露による所見に「麻酔」が記載され（EHC 196(1997)、PATTY（5th, 2001））、ヒトの急性毒性に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記載されている（PATTY（5th, 2001））。

特定標的臓器・全身毒性： 「区分1（中枢神経系、視覚器）」
 （反復暴露） ヒトの低濃度メタノールの長期暴露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述（EHC 196(1997)）や職業上のメタノール暴露による慢性毒性影響として、失明がみられたとの記述（ACGIH（7th, 2001））がある。また、メタノール蒸気に繰り返し暴露することによる慢性毒性症例に頭痛、めまい、不眠症、胃障害が現れたとの記述（ACGIH（7th, 2001））がある。なお、ラットを用いた経口投与試験で肝臓重量変化や肝細胞肥大（PATTY（5th, 2001）、IRIS(2005)）などの報告があるが適応性変化と思われ採用しなかった。

吸引性呼吸器有害性： 「分類できない」
 情報なし

（2）エタノール（100%として）

急性毒性：経口 「区分外」

・ラット LD₅₀ 6,200 mg/kg、LD₅₀ 11,500 mg/kg、LD₅₀ 17,800 mg/kg
 LD₅₀ 13,700 mg/kg（PATTY（6th, 2012））
 LD₅₀ 15,010 mg/kg、
 LD₅₀ 7,000～11,000 mg/kg（SIDS(2005)）

これらはすべて区分外に該当している。

経皮 「区分外」

・ウサギ LDL₀ 20,000 mg/kg(SIDS(2005))

吸入（蒸気） 「区分外」

・ラット LC₅₀ 63,000ppmV(DFGOT vol.12(1999))
 LC₅₀ 66,280ppmV(124.7 mg/L) (SIDS(2005))

いずれも区分外に該当する。なお、被験物質の濃度は飽和蒸気圧濃度、78,026ppmV(147.1 mg/L)の90%（70,223ppmV(132.4 mg/L)）より低い値で

		あることから、ppmV を単位とする基準値を用いた。
吸入（ミスト）	「分類できない」	
		データ不足のため
皮膚腐食性及び 皮膚刺激性	「区分外」	ウサギに 4 時間暴露した試験（OECD TG404）において、適用 1 及び 24 時間後の紅斑の平均スコアが 1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て 0.0 であり、「刺激性なし」の評価（SIDS(2009)）に基づき分類した。
眼に対する重篤な 損傷性・眼刺激性	「区分 2 B」	ウサギを用いた 2 つの Draize 試験（OECD TG405）において、中等度の刺激性と評価されている（SIDS(2005)）。この内、1 つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第 1 日の平均スコアが角膜混濁で 1 以上、結膜発赤で 2 以上であり、かつほとんどの所見が 7 日以内に回復した（ECETOC TR48(2)(1998)）ことに基づき分類した。
呼吸器感作性又は 皮膚感作性	「分類できない」	データ不足のため
生殖細胞変異原性	「分類できない」	in vivo、in vitro の陰性結果あるいは陰性評価がされており、分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できないため、「分類できない」とした。
発がん性	「分類できない」	吸入暴露によるデータが不足しているため、「分類できない」とした。
生殖毒性	「区分 1 A」	ヒトでは出生前にエタノールを摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる（PATTY (6 th , 2012)）。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入暴露による胎児性アルコール症候群の報告はない。
特定標的臓器・全身毒性 （単回暴露）	「区分 3（気道刺激性、麻酔作用）」	ヒトの吸入暴露により眼及び気道への刺激症状が報告されている（PATTY (6 th , 2012)）。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒（筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒（視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害）、さらに重度の中毒症状（嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など）を生じる。と記載されている（PATTY (6 th , 2012)）。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている（SIDS(2005)）。
特定標的臓器・全身毒性 （反復暴露）	「区分 1（肝臓）」、「区分 2（中枢神経系）」	ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する(DFGOT vol.12(1999))との記載があり、区分 1（肝臓）とした。 また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国 FDA は、3 種類の治療薬を承認しているとの記述がある（HSDB(Access on June 2013)）ことか

ら、区分2（中枢神経系）とした。

吸引性呼吸器有害性： 「分類できない」
データ不足のため

12. 環境影響情報

12-1) 製剤の環境影響情報： 情報なし

12-2) 成分の環境影響情報：

(1) メタノール（100%として）

水生環境有害性（急性）： 「区分外」

- ・ 魚類（ブルーギル） LC₅₀ 15,400 mg/L/96 時間（EHC 196(1998)）
- ・ 甲殻類（ブラウンシュリンプ） LC₅₀ 1,340 mg/L/96 時間（EHC 196(1998)）

水生環境有害性（長期間）： 「区分外」

急性毒性区分外であり、難水溶性ではない

（水溶解度=1,000,000 mg/L(PHYSPROP Database,2009)）。

オゾン層への有害性： 「分類できない」

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

(2) エタノール（100%として）

水生環境有害性（急性）： 「区分外」

- ・ 藻類（クロレラ） EC₅₀ 1,000 mg/L/96 時間（SIDS,(2005)）
- ・ 甲殻類（オオミジンコ） EC₅₀ 5,463 mg/L/48 時間（ECETOC TR 91 2003）
- ・ 魚類（ニジマス） LC₅₀ 11,200 ppm/96 時間（SIDS,(2005)）

藻類、甲殻類及び魚類において 100 mg/L で急性毒性が報告されていない。

水生環境有害性（長期間）： 「区分外」

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（BODによる分解度：89%（既存点検、1993））、甲殻類（ニセネコゼミジンコ属の一種）の10日間

NOEC=9.6 mg/L（SIDS,(2005)）であることから、区分外となる。慢性毒性

データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、藻類、魚類ともに急性毒性が区分外相当であり、難水溶性ではない

（miscible,ICSC,2000）。

オゾン層への有害性： 「分類できない」

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・ 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- ・ 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・ 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
- ・ 特殊管理産業廃棄物（廃油）に該当する可能性がある。この場合廃棄においては「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に

- 従うこと。
- 汚染容器・包装 : ・容器は清浄にしてリサイクルするか、関係法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
・空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。
- その他 : 「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意事項による。

14. 輸送上の注意

14-1) 国際規制

- 国連分類 : クラス3 (引火性液体)
- 国連番号 : 1986 ALCOHOLS, FLAMMABLE, TOXIC, N.O.S.
- 容器等級 : II

14-2) 国内規制

- 陸上規制情報 : 消防法に従う。
・消防法 第2条 別表第1 第4類 引火性液体 3 アルコール類
・取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、消防法により第1類及び第6類との混載禁止。
- 海上規制情報 : 船舶安全法に従う。
・港則法 規則第12条 危険物告示別表 2号 ホ
・危険物船舶運送及び貯蔵規則 第2条第1号 ハ (1) 引火性液体
・船舶による危険物の運送基準等を定める告示
第2条第3号 別表第1 引火性液体類
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律
施行令別表第1 3号 イ 21 Z類物質
- 航空規制情報 : 航空法に従う。
・航空法 規則第194条 3 引火性液体 (引火点 60℃以下)
・航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示
別表第1 輸送許容物件

14-3) 緊急時対応措置指針番号 : 131

- 14-4) 特別の安全対策 : ・タンクローリー及びタンク車で輸送する際は、輸送中に漏えいが起こらないように吐出口のバルブ、フランジ面及び安全弁の点検を予め十分に行う。
・輸送前に容器が密閉されているか、又漏れがないか確認する。
・容器の輸送及び運搬は、常にしっかり固定した状態で行き、特に瓶又は缶は輸送中に互いに衝突して破損することのないように予め適当な緩衝物を詰めておく。
・「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載による。

15. 適用法令

消防法	:	第4類アルコール類（指定数量 400L）
労働安全衛生法	:	危険物・引火性の物 : 該当 特定化学物質 : 非該当 第2種有機溶剤等 : 該当 通知対象物質 メタノール 95 wt%、エタノール 4 wt% 表示対象物質 メタノール 95 wt%、エタノール 4 wt%
毒物及び劇物取締法	:	非該当
船舶安全法	:	船舶による危険物の運送基準等を定める告示 第2条第3号 別表第1 引火性液体類 危険物船舶運送及び貯蔵規則 第2条第1号 ハ（1）引火性液体
港則法	:	規則第12条 危険物告示別表 2号 ホ
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律	:	施行令別表第1 3号 イ 21 Z類物質
航空法	:	規則第194条 3 引火性液体（引火点 60°C以下） 航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示 別表第1 輸送許容物件
化学物質排出把握管理推進法（PRTR法）	:	該当しない

16. その他の情報

引用文献	:	
		1) 財団法人バイオインダストリー協会：アルコールハンドブック第9版（1997） 2) JIS Z7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 3) JIS Z7252:2014 GHSに基づく化学品の分類方法 4) 事業者向け GHS 分類ガイダンス（平成 25 年度改訂版(Ver.1.1)） 5) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html 6) 厚生労働省 職場の安全サイト

記載内容は現時点で入手出来た資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱いをお願いします。